

# e-ビジネス論

担当者 伊田 昌弘

開講時期 後期 単 位 2

## ●講義の概要

本講義では、「eビジネス」の多彩な顔を、「電子マネー」・「電子商取引」の現状や、それらが企業経営、流通、金融、生活に及ぼす衝撃と将来展望について、インターネットでホームページを見たり、情報をダウンロードしたりしながら、考える。さらに、「クラウド」や「ビッグデータ」、そして「スマートフォン」についての最新の動向についても触れる予定である。

## ●講義の到達目標

地球ワイドで爆発的に拡大する「インターネット」。その上で広がる「eビジネス」。21世紀の中盤に「eビジネス」や「インターネット経済」が社会経済の主導的な役割をにない、私たちの生活を全面的に変革する時代が訪れる。その変革は、産業革命以来といわれる。本講義の到達目標は、eビジネスとはなにか、現在の産業社会に与える影響、今後の展望を考察し、産業構造と社会の変化を理解できることにある。

## ●講義計画

- 第1回：eビジネスについて  
(eコマースとの違い、対象領域の確定)
- 第2回：アメリカGoogle革命  
(Googleの沿革、ビジネスモデル、アドワーズ)
- 第3回：eコマース  
(B2B、B2C、事例)
- 第4回：クリック&モルタルの時代  
(ユニクロのビジネス)
- 第5回：eマーケットプレイスの課題  
(楽天、アリババ、eBAY)
- 第6回：コミュニケーションの変化  
(Facebook、Twitter、Line)
- 第7回：電子マネーと電子決済  
(ICカードの普及と実際、企業ポイント通貨)
- 第8回：情報の仲介者  
(価格比較サイト、口コミサイト：食べログ)
- 第9回：オープンイノベーション  
(消費者の製造参加)
- 第10回：紙から電子書籍へ  
(コンテンツビジネスの動向と課題)
- 第11回：次世代テレビとコンテンツ輸出  
(多国語対応、オンデマンド)
- 第12回：スマートフォンの革命  
(Mコマースの特徴、旅行、ホテル、チケット)
- 第13回：ビッグデータの活用  
(具体的な活用事例、Yahoo)
- 第14回：クラウドの衝撃  
(インドのソフトウェア企業)
- 第15回：越境ECの意味するもの  
(中国の淘宝网、天猫モール)

## ●成績評価基準と方法

授業への参加度(30%)、授業中の発表(30%)、ディスカッション(40%)を通して総合的に評価。

それぞれの項目に対して、eビジネスに関する新しい事象について、質問及び意見を出し、着眼点(ビジネスモデルの構築や理論展開など)について評価します。

## ●テキスト又は参考文献

伊田昌弘他監修「未来の多国籍企業」文真堂2020

伊田昌弘監修「経営と情報の進化と融合」税務経理協会2014

## ●受講上の留意点

受講生の関心やeビジネスの進展などにより若干の変更がありうる。